

選挙文化

を変えて

女性議員

を増やそう!

はじめに

一般社団法人パリティ・アカデミーは、公益財団法人笹川平和財団と連携し、女性の政治リーダー養成研修などを提供してきました。

女性やマイノリティ、若者がもっと政治に参画し、多様な政治リーダーが増えてほしいと思っています。昭和モデルの選挙文化が今なお残り、子育てなどのケア責任を抱えている人は、不利な状況に置かれているのが実情です。様々な障壁がある中で、選挙そのもののやり方も変えていく必要があるのではないのでしょうか。

分かりにくい選挙のやり方は、新人候補者にはハードルが高く、時間、資金、労力に恵まれた人しか勝てないのでは公平とはいえません。法律の条文や解釈、運用を変えることで、多様な人が立候補できる仕組みに改める時期に来ていると考えます。

このパンフレットは、新人女性候補者や選挙を指揮してきた人達に聞き取りを行い、現状を把握したうえで、論点を整理し、まとめたものです。

国会議員をはじめ、関係者の認識が深まり、新たな仕組みづくりに向けた具体的なアクションにつながることを期待しています。

CONTENTS

- 1 昭和モデルから脱却して新しい選挙文化へ
- 2 公職選挙法を見直しましょう
- 3 子育てと両立できる選挙運動を可能にしましょう
- 4 個人のプライバシーを尊重しましょう
- 5 選挙DXを進めて選挙運動のハードルを下げましょう
- 6 それぞれの現場でやれることのチェックリスト

1

昭和モデルから 脱却して新しい選挙文化へ

女性議員が少ない理由のひとつに、
選挙運動のあり方が女性や新人には不利なことがあります。
「24時間闘えますか」の昭和モデルが
選挙でもまだ続いているのです。

公平で透明性のある選挙ルールを作り、
子育てや介護などで時間が限られる人も
立候補しやすい選挙文化を作りましょう。

新しい選挙文化をつくるには、
公職選挙法の見直しのほかに、
さまざまな改革や支援体制が求められます。

2

公職選挙法を 見直しましょう

公職選挙法は「べからず法」と言われるぐらい
禁止事項が多いのが特色です。
新しい選挙スタイルを試そうと思っても、
法律に抵触してしまうかと思えば、抑制せざるを得ません。

選挙に関する規定は誰にでも分かりやすく、
公平なルールであることが大切です。

候補者が自分の政策を広く伝えられる討論会を
もっと自由に開けるようにすべきです。
有権者が候補者の情報に触れる機会や
手段を増やしましょう。

3

子育てと両立できる 選挙運動を可能にしましょう

子連れの候補者が
公職選挙法違反の心配なく選挙運動ができるよう、
ルールを整備する必要があります。

また、「立候補予備登録制度」を新設して、立候補予定者に、
就業証明と同等の効力を持たせた証明書を発行し、
保育園などに子どもを預けられる仕組みが必要です。

また、政治活動、選挙活動中は子どもの世話や介護は、
家族の誰かに頼むしかないのが現状なため、
シッター代の補助を検討することも必要です。

各政党などが支援金を支給するなどの
取り組みも始まっていますが、
無所属の候補者にも公平な仕組み作りが必要です。

4

個人のプライバシーを 尊重しましょう

SNSの発達で、個人情報の取り扱いは格段に慎重さが
求められる時代になりました。

政治家のプライベートについても、公的情報として
どこまで公開されるべきか見直す必要があります。

地方議員には居住の実態が求められているため、
住所公開が原則となっています。

しかし、単立候補者の告示において
住所の番地は掲載しないことになっています。
当選後の公表についても、同様にすべきではないでしょうか？

政治家の通称使用についても、選挙では認められても、
当選すると戸籍名しか使えない場合もあります。
有権者にとっては混乱を生みかねないものです。

5

選挙DXを進めて選挙運動のハードルを下げましょう

公設掲示板のポスター貼りは、選挙管理委員会が事前に届けられたポスターをまとめて貼ってから掲示板を立てるようやり方を変えられないのでしょうか。平日の朝のポスター貼りの人材確保が難しく、ポスターをすべての公営掲示板に貼れない候補者がいます。すべての候補者のポスターがそろふことは、有権者にとっても有益なはずです。

立候補届けを簡素化し、デジタル化を進めましょう。大量のコピーに、ハンコ、FAXでの連絡、CD-ROMでの提出など、候補者には大きな負担です。選挙に関わるすべての関係者のデジタル対応が必要です。

6

それぞれの現場でやれることのチェックリスト

国会議員

- 公設秘書に女性がいますか

メディア

- 政治部に女性は十分に配置されていますか

企業

- 選挙ボランティアや立候補のための休暇制度を整えていますか

地方議会

- 女性模擬議会を開催しましょう

政党

- 執行部のジェンダーバランスはとれていますか

一般社団法人 パリテ・アカデミー

パリテ・アカデミー（Academy for Gender Parity）は若手女性のリーダーシップを培い、女性やマイノリティが政治に対等に参加することで、ジェンダー平等な政治の実現をめざしています。

三浦まりと申きよんが共同代表として2018年3月に設立し、女性の政治リーダーシップ・トレーニング合宿の提供をはじめ、様々な活動を行っています。

パリテ・アカデミーのビジョンは、議会の性別均等を通じて、誰をも排除しない社会（インクルージョン）を作ること、お互いの違いを尊重する関係性（リスペクト）を築くこと、そして差別がなく、人権が尊重される正義（ジャスティス）にかなう社会を実現することにあります。こうしたビジョンが真の民主主義と平和へと導くでしょう。

パリテ・アカデミーはこれらの理念に深く共鳴する女性議員を養成し、支援します。

一般社団法人パリテ・アカデミー 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館0WL info@parity-academy.org

<http://parity-academy.org/>

Instagram:
parity_academy

facebook:
parity.academy

Twitter:
parity_academy

OFFICIAL SITE ➔



選挙文化を変えて女性議員を増やそう!

2023年3月 発行

制作

一般社団法人パリティ・アカデミー

公益財団法人笹川平和財団

